



3つの地域資源と支援事業と共同活動による活気あるまちづくり

はこにわ さと おくしま つど

おうみはちまんし

箱庭の里 奥嶋の集い（滋賀県近江八幡市）

- 50年以上前に途絶えた、地域に古くから伝わる伝統行事「ほんがら松明」を復活させる活動（ドキュメンタリー映画化）を通じて、活力ある地域づくりに取り組む機運が一気に高まる。
- 3つの地域資源（ほんがら松明、ホトケドジョウ、ミズクグリ）と3つの支援事業（「農地・水・環境保全向上対策（H19～）」、「農山漁村地域力発掘支援モデル事業（H20採択）」、「生物多様性基盤整備パイロット事業（H21採択）」）を活用しながら地域づくりを推進。
- 耕作放棄されていた棚田とその周辺を活動の拠点とし、自然・遊び・農業・林業を一体的に五感で楽しめる癒やし空間として整備する「箱庭の里構想」の実現を目指す。

【地区概要】多面的機能支払交付金

- ・取組面積 38.99ha(田)
- ・資源量 水路11km、農道2.7km
- ・主な構成員 農業者、非農業者、農事組合法人、子供会等
- ・交付金 約3百万円(H29)

農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 古い歴史を持つ島町(旧奥島村)では、かつて、「ほんがら松明」が作られ、奥津嶋神社に奉納されていたが、大変な手間がかかることから約50年以上も前に作られなくなった
- 昭和45年頃には、平場で団体営ほ場整備が実施されたが、山手の棚田は未整備のまま耕作放棄地が広がる
- 地域の農業、環境、伝統等を守るため、みんなで地域の課題に取り組むことが急務



島町の状況

取組内容

【3つの地域資源を活かした取組】

- 地域の伝統行事『ほんがら松明』を50年以上ぶりに復活し、その様子を民間の助成事業を活用し、ドキュメンタリー映画化。その後、毎年活動を継続
- 耕作放棄された棚田を復活し、発見した希少種『ホトケドジョウ』等の生物多様性を保全するため魚道の設置やビオトープ等を整備し、生き物観察会を実施
- 滋賀県在来種の大豆『ミズクグリ』を栽培し、豆腐作りや、地域の米・大豆・そば・野菜等を使った体験ワークショップや収穫祭を開催



【3つの支援事業の活用】

- 「農地・水・環境保全向上対策(H19～)」の他に、「農山漁村地域力発掘支援モデル事業(H20採択)」、「生物多様性基盤整備パイロット事業(H21採択)」も活用し、効果的に地域づくりを推進

取組の効果

- 地域づくりを進めるに当たり、伝統行事“ほんがら松明”の復活が地域住民の自信と結束に繋がった
- 最初に有形無形の「地域資源」の存在を調査し、「課題」を洗い出し、地域づくりの方向性をみんなで話し合い「箱庭の里構想」を策定したおかげで、計画的に各支援事業を活用しながら効果的に取組を進めることができ、世代間を超えた地域住民のコミュニティ形成が図られた



箱庭の里構想